



鯨船祭りから考える 生物文化多様性

鯨船行事 鯨を豊漁と福を招く象徴として継承

富田地区の鯨船行事

船に彫刻と幕で飾られた屋形が設けられ、北島組・中島組・南島組・古川町の4台の山車を使用。

「町練り」と「本練り」

山車とクジラがそれぞれの組のまちを練り歩く「町練り」、鳥出神社に奉納する「本練り」。練りでは山車に乗っているオドリコと呼ばれる少年が、竹や漁網で作られたクジラをしとめる構成。

三重と捕鯨

「鯨船行事」は、三重の北勢地域と熊野地域で現在も続いている。熊野地域では江戸時代に捕鯨がおこなわれていたが、富田地区がある北勢地域では、捕鯨がおこなわれた記録はない。



クジラ(手前)と鯨船(奥)

クジラ 世界のクジラと捕鯨を巡る管理

様々なクジラ

世界には鯨類が約83種あり、三重県では、25種のクジラを海で見ることができる。

国際捕鯨委員会(IWC)の管理対象

対象としている鯨は、大型の鯨類で17種。現在、日本で捕獲されているIWC管理対象の鯨は、ミンククジラ・ニタリクジラ・イワシクジラの3種。2019年に日本はIWCを脱退。商業捕鯨を再開。



捕鯨の様子

ワークショップ開催報告 鯨信仰と国際的捕鯨の是非

富田地区の東富田会館で開催

鯨船行事の魅力や伊勢湾の漁業文化を学ぶとともに、クジラとサステナビリティに関する課題を学ぶ。



解体された山車の見学

鯨船行事に見る漁村文化の講演

講師：加藤正彦氏（富田鯨船保存会連合会会長）

日本の捕鯨文化に関する講演

講師：末田智樹氏（中部大学人文学部教授）

富田地区のまち歩き

加藤氏の案内のもと、漁村として栄えた古い町並みや漁港、鯨船行事で使用される山車の見学。

捕鯨の賛否に関するディスカッション

捕鯨に関して、参加者が捕鯨に対する賛否を表明した後、討論を展開。また、感謝して鯨肉の試食もおこなった。



捕鯨議論の様子

中部ESD拠点「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」は、文化と生物の多様性を学び、それらの保全を通して持続可能な地域づくりをおこなう活動で、トヨタ環境活動助成を受けています。市民一人ひとりが、文化・日常生活との関わりの中で、生物多様性の重要性を理解するために、地域文化の中でも特に「祭り」に焦点を当てて、祭りに関わる植物・食べ物（食材）の生育環境保全についての学習プログラムを開発し、ワークショップを開催しています。

